教 育 委 員 会 会 議 録

開催日　　令和７年９月２９日

南 あ わ じ 市 教 育 委 員 会
南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

南あわじ市及び南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会
合同定例会会議録

１．日　　時　　令和７年９月２９日（月）　午前１０時００分開会

２．場　　所　　南あわじ市役所　第２別館　第５会議室

３．会議次第

開　　会　　午前１０時００分

開議宣告

会議録署名委員の指名　　清水委員（南あわじ市）　山本委員（学校組合）

前回会議録の承認

協議及び報告事項

閉議宣告

閉　　会　　午前１１時２９分

４．会議の出席者

≪南あわじ市≫

（教 育 長）　新 宅 忠 敏

（教育委員）　青 木　　京 、近 藤 宰 常 、清 水 真 澄 、山 本 真 也

≪学校組合≫

（教 育 長）　新 宅 忠 敏

（教育委員）　狩 野 時 夫 、青 木　　京 、山 本 真 也 、橋 本 直 之

５．説明のため出席した者の職氏名

教育次長　坂 東　　聡 、教育次長補兼教育総務課長　田 村 智 巨 、

学校教育課長　居 神 さゆり 、社会教育課長　眞 野 匡 史 、

社会教育課付課長兼生涯学習推進室長　阿萬野 真 司 、

スポーツ青少年課長　柏 木 映理子 、学校給食センター所長　船 本 武 身 、

教育総務課係長　佐々木 友 美 、 教育総務課主査　興 津 里 香

１．開　　会　　午前１０時００分

【新宅教育長】　　定足数に達しておりますので、ただいまから南あわじ市教育委員会及び南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会合同定例会を開会いたします。

２．会議録署名委員の指名

【新宅教育長】　　まず、「会議録署名委員の指名」を行います。

会議録署名委員につきましては、会議規則第１５条第２項の規定により、１名の委員を指名します。

南あわじ市教育委員会会議録署名委員につきましては、清水委員にお願いいたします。

南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会会議録署名委員につきましては、山本委員にお願いいたします。

３．前回会議録の承認

【新宅教育長】　　次に、「前回の会議録の承認」に移ります。

前回会議録につきましては、事前に送付させていただいておりますので、ご確認をお願いしたいと思います。何かお気づきの点はございませんでしたか。

【青木委員】　　（　発言について修正の申し出あり　）

【狩野委員】　　（　発言について修正の申し出あり　）

【新宅教育長】　　ほかにございませんか。

（　「なし」と呼ぶ者あり　）

【新宅教育長】　　ご意見がないようですので、前回教育委員会定例会会議録については一部を修正した上で原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

（　「異議なし」と呼ぶ者あり　）

【新宅教育長】　　異議なしと認めます。

よって、前回の定例会の会議録は一部を修正した上で承認することに決定しました。

４．教育長報告

【新宅教育長】　　次に、「教育長報告」をさせていただきます。

本日は、スクールイノベーション事業中間報告についてお話させていただきます。今年度よりスクールチャレンジ事業からスクールイノベーション事業に変わって１回目の中間報告会を開催いたしました。昨年度は校長のプレゼンによる報告でしたが、今年度は、昨年度の中間報告会でご指摘をいただいたことを踏まえ、主幹教諭や研修担当の先生方から報告いただきました。また、中学校区ごとに分かれて発表を行い、ディスカッションの時間も取り入れました。

成果としては、各学校の取組状況が非常に明らかになったということがございます。また、研修担当等の発表により具体的な取組が見られました。小中学校のつながりを意識できたという意見も多く見られました。中学校区ごとに開催をしたことも非常に良かったのではないかと思っております。他校の取組を参考にして自校へ取り入れようとする様子も見られました。発表後のディスカッションが非常に好評で、それぞれの立場から多様な意見が出されておりました。その他、取組について整理ができた、考えがまとまった、見通しが持てたという意見もございました。

課題につきましては、発表者の負担感が否めないということや、実施時期や結果をどのように生かすかということに対しても意見がありました。また、発表の中で子どもの姿が見えづらい、成果課題の要因の分析が弱い、ディスカッションの進め方として、話題を焦点化するかどうかというところに対する意見もありました。

私の方からは、小中一貫で何か取り組めるようなものがあればいいのではないかということを伝えましたが、急にはなかなか難しかったかなと感じております。

来年度以降の報告会については、開催時期、方法、発表者について完全にはまとっておりませんが、中間報告という形よりも取り組んできた成果や課題等について１年間のまとめを発表するという方法もいいのではないかと検討しているところです。中間報告となると、取組予定だけれどまだ取り組んでいないこともありますので、その辺が報告しづらいのではないかということと、１年間のまとめを報告することで、次の取組へつなげていきやすいのではないかと思っております。

発表者については、来年度で３年目になりますので、すべての教職員が、現任校の取組を理解して進めることができているかという段階になると思います。そこで、若手の先生や異動してきたばかりの先生などに多数参加していただくことを検討しております。それによって、関わる人、理解する人が広がっていくのではないかと考えております。

令和８年度の事業展開と予算についてですけども、今年度と同様、９月上旬を目途

に各学校から計画書を提出してもらい、教育委員会で査定をして年内には予算を決定するという事で、８月２７日の校長会で周知しております。

また、他のブロックの発表も聞きたかったという意見もありましたので、来年度はオンラインの導入なども考えていければと思っております。

中間報告会では、１１月に開催される教育みらい創造フェスティバルでの発表校を選考することになっておりました。選考の結果、神代小学校、賀集小学校、阿万小学校の３校に決定しましたので、お知らせいたします。

【新宅教育長】　以上で報告を終わります。この件につきまして、何かございませんか。

（　「なし」と呼ぶ者あり　）

【青木委員】　中間報告会は３回とも拝見させていただきました。先生方が楽しそうに発表されているところや、ディスカッションの場面では、進め方に課題はあるでしょうが意欲的にディスカッションをされている姿が見られてとても良かったと思います。ファシリテーターを教育委員会の方で担当されていましたが、この役割も先生方にしていただいてもいいのではないかと思いました。こちらが主導するのではなく、その場で誰かやりませんかというように皆さんに委ねていくのはどうでしょうか。その結果、声が上がらなければそれはそれでいいのではないかと思いました。

あと、大勢の方が来られていたので会場が狭く感じました。もう少しゆったりと皆さんの顔がお互いに見えるような会場にしてみてはどうでしょうか。その方がディスカッションも進んでいくのではないかと思いました。

教育みらい創造フェスティバルで、神代、賀集、阿万小学校が選ばれましたが、よかったらその理由を教えていただけますか。

【坂東次長】　３校の選考の理由につきましては、基本的には、子どもが主体的に取り組める学びを学校全体で取り組んでいるか、そういう方向性で授業を展開しているか、ということが一つ目です。そして、それを効果的に伝えられているかということが２つ目です。自校の取組を伝えることで、他校の授業力向上につなげるとともに、地域への発信力として、学校の授業が変化してきていることを伝えられているか。昔の授業風景からすると教室がガチャガチャしたイメージを持つかもしれませんが、学びを深めるために、こんな風に授業が変わってきていますよということを広くアピールできているか。そういう視点で選ばせていただきました。

【青木委員】　ありがとうございます。

あと、教育長のお話の中で、今後は中間報告ではなく、まとめの報告をするのもいいのではないかとおっしゃっていたと思いますが、私は、中間報告が絶対にいいと思

っています。まとめの報告にすると、良い意見が出ても改善できないのではないかと思います。中間報告だと、残りの期間でブラッシュアップし、より良くしていくことができるのかなと思うので、まとめだけというよりは、中間とまとめの報告、もしくは中間報告がいいのではないかなと思いました。

【新宅教育長】　　ご意見ありがとうございます。まとめは、これで終わりという意味ではなく、発表時期としては年度途中になりますので、１年間取り組んできたまとめを発表し、今年度後半は意見を踏まえて次へ進めていきますよというふうに繋がっていくという意味でのまとめというふうに考えています。考え方としては、青木委員と同じだと思っています。

【新宅教育長】　　ほかに何かございませんか。

（　「なし」と呼ぶ者あり　）

【新宅教育長】　　ないようですので「教育長報告」を終わらせていただきます。

５．協議及び報告事項

【新宅教育長】　　続いて、協議及び報告事項に移りたいと思います。
協議及び報告事項につきましては、お手元に資料を配布しております。

（１）南あわじ市議会９月定例会一般質問の報告について

【新宅教育長】　　「南あわじ市議会９月定例会一般質問の報告について」、事務局より説明をお願いします。

【田村次長補】　　８月２９日から９月２６日までの会期で開催された第１３４回南あわじ市議会定例会におきまして、９月８日・９日・１０日・１１日の４日間にわたり、１６名の一般質問がありました。そのうち、教育委員会関連の質問は１１名で、質問項目としては大きく分類して１２項目ありました。それでは、主なものについての答弁内容の概略をご報告いたします。
まず、これまでも何度か質問のあった学校再編について、３名の議員から質問がありました。これに対し、この度、「南あわじ市小中学校のあり方検討方針」を策定した。今後はこれに基づき「再編」ではなく「あり方の検討」を進めていく。検討にあたっ

ては地域や保護者、学校関係者とともに丁寧に進めていく。あり方の検討においては、小規模校の維持や統合などのそれぞれの場合におけるメリットやデメリットを説明し、小規模特認校制度の活用や義務教育学校、小中一貫校などの可能性についても検討していく。といった内容の答弁をいたしました。

次に、８月に開催した子ども議会での質疑応答を受け、沼島の離島留学について、２名の議員から質問がありました。主な答弁内容といたしましては、離島留学については問い合わせが年々増えており、成果をあげている。一方で住むところや保護者の仕事といった課題もあり、今後も検討していく。また、沼島小中学校については「あり方検討委員会」を立ち上げ、関係者がアイデアを出し合って魅力ある学校づくりや持続可能な学校のあり方について協議をしているところ。などの答弁をいたしました。

次に、学力向上の取り組みについての質問がありました。主な答弁といたしまして、全国学力学習状況調査において、全国的傾向と同様に本市においても一部教科で平均スコアが下がっている。家庭学習時間の減少などの要因が考えられる。ＧＩＧＡスクール構想に基づく１人１台のタブレットを有効活用し、より深い学びの実現、家庭・地域との連携強化を目指して取り組むとともに、授業に興味を持ってもらえるよう、スクールイノベーション事業に取り組み、授業改革を進めている。加えてアフタースクールにより体験プログラムや学習活動などを通じ、児童生徒の学びの場を提供している。今後も取り組みを進めていく。などを答弁いたしました。

このほか、「大阪万博体験ツアー」について、や「部活動の地域展開　ＭＩＮＡ・ＫＡＴＳＵの取り組み」、「平和教育や英語教育」、「教育関係施設の整備」や「志知城を活かした地域振興」、「化学物質過敏症への取り組み」、「生徒指導の取り組み」など、幅広い質問がございました。

質問内容と答弁の詳細につきましては、記載のとおりでございますのでご確認をお願いいたします。

以上で、南あわじ市議会９月定例会一般質問のご報告とさせていただきます。

【新宅教育長】　　説明が終わりました。

この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

【清水委員】　　「ＭＩＮＡ・ＫＡＴＳＵ」についても質問が出たようですが、生徒数の減少もあり、市内では、野球部とサッカー部が合同部活動を実施しています。そのような中で、合同部活動に入っている子どもたちに対し、学校でどのように盛り上げていくかというところが大事だと思います。以前聞いた話では、ある中学校のサッカー部の生徒がもう辞めたいと。理由は、部員が少なくてただ走らせているだけでサッカーをしていないからだと。でも学校は辞めさせてくれない。という意見がありました。せっかく部活に入ったのに辞めたいと思ってしまっている現状がもったいないですし、地域展開を進めていく中で、今まさに、部活で活動している子たちをどういうふうに

盛り上げていくかというところが大切ではないかと思います。週末に合同練習しても、平日の学校での部活動が上手くいってなかったら、部活を続けるモチベーションが続かないと思います。このままでは、部活に入っても意味がないという噂が広がってしまって、せっかくの部活動が地域展開になる前に消滅してしまうのではないかと心配しています。令和１０年の８月までは、部活動を頑張ろうと持っていくのか、そもそも誰も来ないから今年度から受け入れは停止しますとするのか、早く答えを出してあげないと、せっかく入った子どもたちにとってのメリットがなくなってしまうのではないでしょうか。また、実際に辞めたいと言った子に対し、人が少ないから辞めないでというのもおかしいと思うので、地域展開へ向かう期間の子どもたちをどのように支えていくのかというところは、しっかり先生たちに伝えて考えていただいた方がいいのではないかと思います。

あと、体育会での部活デモンストレーションへの地域クラブの参加については、校長会へも伝達するということですので、ぜひ積極的に取り入れてほしいと思っています。

【坂東次長】　部活動についての練習内容など何かご意見がある場合は、学校に直接聞いていただくのが一番かなと思います。顧問の先生は、人数が少ない場合でも平日の練習の仕方を工夫していると思いますし、休日は合同練習など、できることを進めていると思います。地域展開で部活がなくなるからという捉え方はしていないと思っております。今後も、学校だけでなく、保護者ともしっかり連携をして進めていけたらと思います。

体育会での部活デモンストレーションの件では、本日午後からの校長会で連絡させていただきます。ありがとうございます。

【清水委員】　これは私が直接学校へ言った方がいいということでしょうか。子どもたちから回り回って入ってきた話なので、どのように学校へ伝えたらいいのか少し難しいなあと感じているのですが。

【坂東次長】　そういうお話があった際に、直接学校へ相談していただくよう伝えていただければと思います。

【青木委員】　私も相談を受けることがあります。その時にはっきりと、学校に働きかけてもいいのだということと、その時は要望やクレームではなく、先生に相談をするような感じで行ってはどうかということを伝えています。子どもたちや保護者の考えを伝え、先生はどう考えていますか、というふうに持っていければと。保護者としては、学校へ働きかけるなんてとても無理だし無駄だと思っている方が多いようです。それでも聞いてくれる先生がいるかもしれないよということも何度も伝えています。

そして実際に学校へ働きかけている保護者の方もいらっしゃいます。実際に、ある学校では、部活動の人数が足りなくて、ある先生のやり方に対し生徒が不満を持っているということがありました。でも生徒たちの中で不満を言っていてもしょうがないから、みんなで先生に思っていることを言いに行かなきゃと伝えたところ、先日、先生に自分たちはこう考えているけど先生はどう考えているの、という話し合いができたそうです。子どもたちにはその力があるし、権利もあるし、できるのだということを繰り返し伝えていくことが大切なのではないかと思います。

【清水委員】　子どもたちには、先生にもう一回相談しに行こうと声をかけたいと思います。

【新宅教育長】　ほかに何かございませんか。

（　「なし」と呼ぶ者あり　）

（２）令和７年度全国学力学習状況調査の概要について

【新宅教育長】　「令和７年度全国学力学習状況調査の概要について」、事務局より説明をお願いします。

【坂東次長】　令和７年度全国学力状況調査の概要について説明させていただきます。資料をご覧ください。テストについてですが、今年度は、例年どおりの国語・算数・数学に加えて、理科が行われております。中学校理科ではＣＢＴという、タブレットのディスプレイに表示される問題にキーボードを使って解答する形式で行われています。特に回答について大きなトラブルはなかったと聞いております。

結果につきましては、小学校については全国とほぼ程度です。中学校については、数学にやや苦手な部分が見られる傾向が出ております。各校とも、夏休み期間中に結果が戻ってきており、それをもとに自校の傾向を分析し、今後の課題をしっかり捉え、授業改善に活かしていくものとしております。

次に、質問用紙の結果をご覧ください。昨年度までは複数年の経年変化が分かるような表を作成しておりましたが、毎年、質問項目が変わってきており経年変化を示しにくくなっているため、今回は令和６年度と７年度の中で、教育振興基本計画の成果指標として示しているものを中心に掲載しています。成果指標にはしていないが重視している項目として、ＩＣＴに関わる部分を掲載しています。各校ともＩＣＴ機器を有効的に活用しているというところが成果として現れているのではないかと思います。

あと、中学校の方で、「自分と違う意見について考えるのが楽しい」「総合的な学習

の時間で、自分で課題を立て情報を集め整理し、調べたことを発表する学習をしている」「わからないことや詳しく知りたいことを自分で学び方を考え、工夫することができている」のあたりが低く、課題と考えられます。主体的な学びと深い学びが授業でしっかりとデザインできているのかというところが少し気になる所です。

表現活動についても取り組んでいますが、まだまだ苦手と感じている生徒が多いということが、今回の質問用紙の結果から見てとれるかと思います。過去と比べると非常に表現力がついてきていることは間違いないですが、本人たちの中ではまだそれほど自信があるものではないのかなというところです。

次のページから、正答率が悪かった問題を掲載しております。まず、五角形の面積を求める問題ですが、まず補助線を１本引いてから面積を求めるのですが、どのようにして面積を求めるかというところの説明ができない。式だけならもう少しできる子が多いとは思いますが、文章表現で書くことが苦手というところで、この問題が空欄だった子が４４％でした。

次の問題は、５分の２たす５分の１の答えを導くのに、５分の１をもとにして考える問題ですが、通分を何のためにするのかという説明を文章で書くところが非常に難しいと思います。中学校の数学教師がこの部分について説明できるかというとなかなか難しいと思いますので、こういう部分をきちんと押さえて授業をすることが、今後必要になってくるのではないかと思います。

最後の問題は、資料を収集し、選択し活用する典型的な問題です。１０％増量の場合、全体としては何倍になりましたかという問に対し、０．１倍と答えている子が非常に多かったという結果になりました。普通に考えると、０．１倍はもとの量より少なくなっているとわかるはずですが、そういう感覚がないのだと思います。出てきた数字がそのまま答えになってしまっています。

私は、中学校では凝った作りの自作の数学のテストを出していたのですが、あえて問題文の中に不要な情報を混ぜた問題を作ると、生徒は複数の情報に惑わされて何を聞かれているか分からなくなってしまいます。でもここが、日常の生活の中で数学を活用するということになると一番大事な力になってきます。必要な情報を選択して必要な処理をする。今までは、処理する部分がメインになっていましたが、情報をしっかり収集し、要らない情報と要る情報を区別するという力をつけられるよう、授業の中で焦点化していかなければならないのではないかと思います。

【狩野委員】　非常に理解しやすい報告でした。ひとつ気になったのが、今まで、淡路島全体で中学校数学の正答率が結構良かったのですが、今年は非常に低くなっています。これは何か要因があるのでしょうか。

また、先ほど坂東次長がおっしゃったように、この調査は実態を分析して授業改善に結びつけることが最大の目的だと思うのですが。先生方が正答率の悪かった問題を子どもの成績を上げるためだけではなく、自分の授業改善を目的として実際に解くと

いうことは大事なことだと思います。自分で解くことで、何が求められているのかということが分かってきます。分析結果だけを聞くと、ここが悪かったのかで終わってしまって、授業改善までなかなか結びつきにくいのではないかと思います。

あと、これまでの質問項目の中に「学校に行くのが楽しいですか」というものがあったのですが、今回はここに挙げられていません。今、日本では不登校が増えていますが、欧米などの国では不登校という言葉すら存在せず、そういう概念もない国がたくさんあるそうです。この「学校に行くのが楽しいですか」という質項目もそうですが、今回の結果から不登校を解決する糸口が見つからないものかと思いました。

【坂東次長】　おっしゃるとおり、数学に関して、今までは結構正答率が高かったという認識は持っております。なぜ今年度、正答率が悪くなったのかというところは原因がはっきりしない状況です。

また、狩野委員がおっしゃられるように、先生が問題を実際に解いてみるということは必要なことだと思います。今後、子どもたちが社会を生きていくために求められている力とは何かということを知ったうえで授業をするのと、今まで通りの授業をするのと全然違ってくると思います。やはり求められている力を知るために、実際の問題を解いてみて、自分の授業でこれができるかなという視点が非常に大事になってきます。これについては、校長会等の機会をとらえ、ぜひ実行してくださいということを伝えていきたいと思っております。

「学校に行くのが楽しい」という質問項目については、小学校８７．９％、全国は８６．５％、中学校９０．１％、全国は８６．１％となっております。

【近藤委員】　質問項目の「将来の夢や目標を持っている」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」という質問項目について、小学校では、８０％台ですが、中学校になると下がっています。対象は同じ子どもではないため単純比較はしにくいかと思いますが、中学校になると低下する原因はどこにあると考えられていますか。

主体的、対話的で深い学びを中学校でもどんどん進めていけば、この辺が改善するのではないだろうかと期待もしております。

【坂東次長】　自分の力を知ったうえで、何が足りないかといった学びの習慣をつけていくということが必要かなと思います。そこで、キャリア教育の観点からの授業をどんどん入れております。企業と連携した授業をとおして、自分が知らなかった職業に触れたり、新しい考え方に接したり、そういったことを学ぶことで、小学校の時に思っていた夢と目標とは違ってきても、新たな夢や目標が見えてくることもあると思います。

それぞれの教科を通して、キャリア教育を進めていきたいと思っています。

【近藤委員】　　中学生の皆さんには、キャリア教育であったり、トライやる・ウィークであったり、道徳の授業であったり、学級活動であったり、いろんな活動を通じて、小学校とは一段違うなりたい自分とか、将来の夢、具体的な夢であったり、人としての生き方とか、そういったことを考えていただければと思います。また、先生方には、部活動が完全に地域へ移行した際には、部活動にかけていたエネルギーをそういった方面へかけていただきたいと思います。それによって、この質問に関する数値も上がってくるのではないかと思います。中学校の先生方には、子どもたちが夢や目標を持ったり、社会や世の中のためにやりたいことなどを自らみつけられるよう、主体的対話的で深い学びやスクールイノベーション事業などを通してご尽力いただければと思っております。

【清水委員】　　普段、親がどういうふうに子どもたちと会話しているのかも大切だと思います。例えば、親が、世の中物価高騰でお金なくて未来がない、といった話をしていると、子どもたちは、そんな親の会話やＳＮＳなどの情報を取り込んでしまいます。学校の先生が、いくら子どもたちに夢や希望を持つことを働きかけても、身近な大人が悲観的だとなかなか難しいのではないかと思います。ですから、家庭に対し、こういう結果が出ているので子どもたちに前向きな働きかけをするよう呼びかけてもいいのではないかと思います。

【坂東次長】　　保護者からの声として、今まで、子どもがノートに宿題をしているところを見ながら教えたり会話したりする機会があったが、タブレットの導入によってそういう機会がなくなってしまった。これはタブレット導入のデメリットではないかという話を聞いたことがあります。そういう考えもありますが、タブレットを話題にして、どうやって使うの、といった会話も生まれるのではないかと思います。また、親も子どももスマホをずっと触っているという状況が増え、家庭内で会話自体が減っているのではないかというところも気になります。

　家庭での会話は、夢や目標に限ったことではなく、子どもの成長にとってはとても大きな影響があると感じております。子どもとの会話については、以前から学校からも発信していることではありますが、今回このような結果が出たタイミングで、家庭へ働きかけをすることはできるのではないかと思っています。

【青木委員】　　遠方に、過去に子どもが不登校になって悩んでいた友達がいましたが、今は大変幸せそうに２人の子どもさんは生活されています。彼らが言っていたそうですが、近くにいる大人が楽しそうにしてくれさえすれば、自分たちは意欲的に生きていけるということに気づいた、ということです。保護者が、子どもが不登校になってしまってどうしよう、勉強しなくてどうしよう、と気持ちが落ちている様子があると、それを見た子どもも一緒に気持ちが落ちていくそうです。でも、現状を受け入れて、

生きていてくれてありがとうと思ってくれていて、いきいきしている親を見ていたら、自分もやっていこうと思えたそうです。

結局は、学校の先生が元気で、親も元気で、その様子をみんなで見ることができたら、世の中は少しずつでもよくなっていくのだろうと思います。その希望を私たちは捨ててはいけないのだと思いました。

質問項目の「先生は良い所を認めてくれる」は、昨年度と比較すると上昇しています。中学校は５ポイント以上アップしていますので、先生たちが頑張ってくださっているということですし、すごくいいことだと思っています。これは、「良い所」というよりは「先生は自分のことを認めてくれている」と私は読み取っていますが、とても大事なところだと思います。勉強していないとか、批判されるばかりでなく、先生が自分たちを見てくれていると子どもたちが認識するところから始まるのではないかと思います。この数値は嬉しいなと思いました。

【山本委員】　先ほどお話にも出ていましたが、質問項目「将来の夢や目標を持っている」というところで、中学生は小学生に比べて低い現状にあります。大人たちの環境や行動が子どもにも影響するというのは本当にそうだと思います。私も子どもが３人おりますが、３人ともそれぞれ考え方が全く違っています。将来の夢は、どこで出てくるのか子どもたちによってそれぞれだと思いますので、学校の先生の導く力も大事なのかなと思います。

また、「分からないことや詳しく知りたいことを自分で学び方を考え、工夫することができる」という質問項目について、小学生は少し上がっていますが、中学生が今回かなり下がっています。昨年度もお話させていただいたと思いますが、自分で考えて行動するということは、小学校、中学校の時期だと先生や周りの子がいる中でサポートもありますが、大人になってからは特にここが一番大事にしなければならないことだと思いますので、この力が下がってしまうことのないよう、校長会などで伝えていただければと思いました。

【青木委員】　「夢がない」というと、夢がないこと自体がダメだと思ってしまう子どももいるのではないかと思います。ですから、先生や大人が、今、夢がないことを認めてあげることがスタートになるのだと思います。夢を持たないといけないのではなくて、いつか夢が持てることを一緒に楽しみにしているというスタンスというか、こちらの本気が子どもたちに伝わるといいなと思います。

先日、南あわじ市こども映画祭が開催されました。今年度のテーマは「宝物」でした。ある高校生の作品ですが、学校で宝物について作文を書くように言われたが、自分には宝物がない。みんなは書いているのに私は書けない。ダメなのかなって思っていたら、後ろの席の女の子が、宝物がないって書けばいいんじゃないのって言ってくれた。宝物なくてもいいんじゃないのって認めてくれた。結局、私にとっての宝物は

そういうことを言ってくれる友がいることだっていう結末の映画だったのですが、さっきの夢を持っている話と同様に、宝物がないことはダメなことじゃないということ。それを認めてくれる人がいるということ。それが大切なことだと思いました。

【新宅教育長】　　様々なご意見ありがとうございました。
ほかに何かございませんか。

（　「なし」と呼ぶ者あり　）

（３）当面の行事予定及び教育委員会後援名義使用許可の報告について

【新宅教育長】　　「当面の行事予定」、「教育委員会後援名義使用許可状況」については、資料をご覧おき願います。

６．その他

【新宅教育長】　次に「その他」に移らせていただきます。
何かございませんか。

○小中学校における熱中症特別警戒アラート発表時の対応について

【居神課長】　　お手元の「小中学校における熱中症特別警戒アラート発表時の対応について」をご覧ください。これは、９月１日付で、教育委員会より、あんしんネットのメールにて保護者の皆様に周知させていただいております。特別警戒アラートは、通常の警戒アラートとは別で、過去に発動されたことはないのですが、これが発動される時には重大な健康被害が発生する恐れがあるという状況になります。具体的に申し上げますと、兵庫県に１９か所、暑さ指数情報提供地点というものがあります。普段発表される熱中症警戒アラートはどこか１か所で暑さ指数が３３を超えた場合に発表されますが、特別警戒アラートは１９か所全てで翌日の暑さ指数が３５に達する場合に発表されるものです。これは災害級の暑さが想定されています。特別警戒アラーは、前日の１４時頃に発表されますので、この特別警戒アラートが発表された時には、市内の小中学校は翌日を臨時休業といたします。このような内容で、洲本市と併せて９月１日に発出させていただいておりますので、ご報告をさせていただきます。

【新宅教育長】　　この件について何かございませんか。

【山本委員】　　この熱中症警戒アラートの件で、小学生の子どもが２人いる方が困ってらっしゃいました。特別警戒アラートは前日の午後に発表されるので、共働き家庭だと急に仕事を休むのが難しいと。でも子どもだけ家に置いておくわけにいかないので、本当に困っていると。そういう家庭はほかにもたくさんあると思うのですが、市として何か対策を検討しているようなことはありますか。

【居神課長】　　特別警戒アラートが発表されるという時は、登校すること自体が危険な状態ということになります。県内１９か所の地点の中には兎和野高原も含まれています。高原で警戒アラートの指数が出るという時には、おそらく通学路などがある平地ではかなり危険な状態になる状況が考えられますので、登下校時の安全面をまず配慮させていただいての対応となります。ご家庭によって、共働きのところもたくさんありますし、ご迷惑をおかけすることになるかとは思いますが、まずは登下校の子供たちの安全を第一に考えさせていただいての対応ということでご理解いただければと思います。

【清水委員】　　コロナ禍で学校が休校になった際には、阿万地区では３か所で、地域の人が日中の子どもたちを見てくれる場所が立ち上がりました。保護者が子どもにお弁当を持たせて送迎さえしたら大人がちゃんと見てくれていました。私もボランティアで参加させていただきました。今後も地球温暖化で夏がどんどん暑くなってくると思うので、そういう地域の受け皿があるのとないのとで違ってくると思います。急に臨時休校になって、子どもたちだけで家にいて、冷房をつけていなかったり停電で冷房が切れてしまったり、色々考えられるので、子どもたちが学校に行かずに家にいることが必ずしも安全ではない場合もあると思います。子どもたちを見てくれる場所があった方が保護者も安心して仕事に行けると思いますので、できれば教育委員会として、休校の場合はこういう対応をしていますということを提示できたらいいのではないかと思います。

【青木委員】　　阿万地区での取組がいろいろな地域で立ち上がったら、南あわじ市としてのアピールになると思います。旧倭文中学校の活用のひとつとしても考えられるのかなと思いました。

【狩野委員】　　現在、学童保育は、台風などで警報が出て学校が休校になった場合は、同様に休みになるシステムだと思うのですが、休校時の受け皿としていく予定などはないですか。

【柏木課長】　　コロナによる休校時には、本当に困っているという家庭のお子さんだけを対象に学童保育でお預かりしていた経過はございます。アフタースクール事業は、学童保育事業も含めた子育て支援と、教育活動を含めた子どもたちの居場所という位置付けの事業ですので、熱中症特別警戒アラートが発表されるほどの災害級の危険な暑さというところを考えると、できればご家庭で見ていただく方が安心安全なのかなと考えております。ただ、コロナ禍の時も、病院勤務の保護者など、本当に困っていらっしゃるご家庭もあることは承知しておりますので、そのような事情も踏まえて、他の自治体の対応等も調べながら検討していきたいと思っております。

先ほど狩野委員がおっしゃった、学童保育及びアフタースクールの実施については、現在、活動中に警報が出た時点で、活動をその場で取りやめ、こどもあんしんネットを通して保護者にお知らせし、可能な限り早めにお迎えに来ていただくような対応をしております。

○教育みらい創造フェスティバルについて

【坂東次長】　　教育みらい創造フェスティバルについてご案内いたします。１１月１６日、午前中に総合防災訓練が開催され、その日の午後からの開催となります。開会式などの式典はありません。教育長報告でも話がありましたが、代表３校による授業改善の取組発表や、オープニングでは、益子侑さんと淡路ダンススクールのダンスチームのパフォーマンスがあります。また、部活動の地域展開について兵庫教育大学の森田先生の講演、また、記念講演としてオリンピック金メダリストのウルフ・アロン氏に来ていただく予定となっております。非常に盛りだくさんで、長時間にわたりますが、ぜひご参加いただければと思います。

○南あわじ市公民館公開講座「子どものいのちの育ち方と、自分自身の成長について」

【阿萬野室長】　　お手元に公民館公開講座のちらしを配らせていただきました。ＮＨＫ「やまと尼寺精進日記」にも出演されておりました佐々木慈瞳さんの講演会のご案内です。１１月１５日の土曜日午後からの開演です。教育委員の皆さんにもぜひ出席いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○兵庫県市町村教育委員会連合会広報誌「はぐくみ１６７号」について

【田村次長補】　　兵庫県市町教育委員会連合会発行の「はぐくみ１６７号」について、

お手元に配布させていただいております。この中で、南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会の新宅教育長の記事が掲載されています。学校組合という組織が全国でも事例が少ないということで、そういった運営等について紹介をさせていただいたものです。またお目通しいただければと思います。

○教育委員の服務等について

【田村次長補】　　お手元に資料を配布させていただいております。来たる１０月２６日に執行されます南あわじ市議会議員選挙を前に、教育委員の皆様方の政治活動の制限について、すでにご承知のことと思いますけれども、お知らせさせていただくものです。教育委員は、政党その他の政治団体の役員になることや、積極的に政治活動を行うことが禁止をされておりますし、また教育委員という公務員としての地位を利用した選挙活動を行うこともできないことになっております。実際にどういった活動が制限されるのかというところは、個別具体の内容によって判断をされることになりますので、できるだけ、疑念を招くような行為については慎んでいただく方がいいのかなと思っております。

併せて、今回の市議会議員選挙につきましては、１０月１９日が告示日、１０月２０日から期日前投票ができます。また、投票所のほうへ足をお運びいただきたいと思います。

○「南あわじ市小中学校のあり方検討方針」について

【田村次長補】　　「南あわじ市小中学校のあり方検討方針」につきまして、８月２７日の校長会で、小中学校の校長先生にもご説明をさせていただき、その後、各学校へ周知をさせていただきました。また、９月に入って市議会議員の皆様方にも内容をご説明させていただき、明日９月３０日から市のホームページで公表する予定となっております。今後、この内容に基づいて、教育委員会の中で協議を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○１２月、１月教育委員会定例会の日程調整について

【田村次長補】　　今回は、１２月及び１月の２か月分の教育委員会定例会の日程を調整させていただきました。日程調整の結果、１２月定例会は、１２月１９日（金）午後１時３０分から、１月定例会については、１月３０日（金）午前１０時から、いずれ

も第２別館第５会議室で開催したいと思いますのでよろしくお願いいたします。このいずれかの日程で、今年度２回目の総合教育会議を開催させていただきたいと思っておりまして、できましたら１２月１９日を予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

７．閉　　会

【新宅教育長】　以上で本日の定例会の日程はすべて終了しました。

　これをもちまして、南あわじ市教育委員会、及び南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会合同定例会を閉会します。

午前１１時２９分